

## 特別頒布対象図録

平成27年1月10日現在

図 録	発行年月日	定価	特別頒布価格
<b>日蘭交流400年記念特別展</b>	12. 2. 27	2,000	1,000
今日のオランダ王室の祖、ウィレム5世の時代である、18世紀後期に花開いた、優美かつ端正なオランダ宮廷文化の美の精華を、絵画や様々な工芸品を通して、ご紹介しています。			
<b>明治美術再見Ⅳ</b>	13. 1. 13	1,500	750
洋画家・山本芳翠の油彩作品を中心に、高橋由一、五姓田吉松など、明治初期から中期にかけての主要な洋画家たちの諸作と、これまで公開されていない三の丸尚蔵館収蔵の明治期記録写真とを、写実的な記録性に焦点を当ててご紹介しています。			
<b>細工・置物・つくりもの</b>	14. 7. 6	1,500	750
三の丸尚蔵館収蔵品の中から、自然物そのままを用いた置物、工芸品をはじめ、多種多様な造り物、細工物をご紹介しています。			
<b>工芸風土記 式一木・竹・漆工の世界</b>	15. 7. 5	1,500	750
木・竹・漆の三分野の工芸作品を特集してご紹介しています。 木工は、桑や黄楊 <sup>つげ</sup> の良材産地の三宅島・御蔵島産を使用の指物や櫛及び明治期以降富山に伝えられた木象嵌による作品、竹工は、飯塚 <sup>ろうかんさい</sup> 琅玕斎の作品も含め、大正十年代から昭和初期にかけて制作された花籠の数々、漆工は、津軽の変わり塗、会津や金沢の蒔絵をはじめ香川、久留米、沖縄などの多彩な技法による作品です。			
<b>贈るころ・受けとられた美</b>	17. 1. 8	1,500	750
皇室が世界の国々とのご交際に際し、増進を受けられた品々を、ご紹介しています。ヨーロッパの絵画、彫刻、ガラスや陶磁器などの工芸品、タイの金工品や漆工品、トルコの刺繍作品などのほか、アメジストや銀の小箱、ブローチなどの装飾品も含まれています。			
<b>官展を彩った名品・話題作</b>	17. 7. 23	1,800	900
三の丸尚蔵館収蔵の、かつての官設美術展覧会で発表時に高い評価を受けた、大正から昭和にかけての選りすぐりの絵画作品、工芸品の数々を、ご紹介しています。			
<b>福やござれ一寿ぎの美・新春に集う</b>	19. 1. 6	1,800	900
三の丸尚蔵館には、明治期以降の皇室の御慶事に際して献上された、寿の美が表された作品が収蔵されています。新春にちなみ、新たな年に福の神を迎え、初夢に願いを込める正月を飾る品々を中心に、松竹梅に鶴亀、七福神や宝船など、幅広く親しまれた作品を、ご紹介しています。			
<b>香淳皇后の御絵と画伯たち</b>	19. 3. 27	1,500	750
香淳皇后(昭和天皇の皇后)は、高取稚成、川合玉堂、前田青邨に日本画の指導を受けられ、多くの絵画作品を遺されました。この図録は、香淳皇后の御絵とともに三人の師の作品、ご親交のあった山口蓬春、奥村土牛両画伯の作品を、ご紹介しています。			
<b>京焼多彩なり一明治から昭和へ</b>	19. 7. 7	1,500	750
わが国の焼き物の中でも、京焼は華やかな意匠と繊細な絵付けによって親しまれています。三の丸尚蔵館収蔵の、三代清風與平、五代・六代清水六兵衛、楠部彌弍などの作品を中心に、多彩に展開してきた近現代の京焼を、ご紹介しています。			
<b>祝美一大正期皇室御慶事の品々</b>	19. 9. 29	1,500	750
大正時代は、慶祝の意をこめたさまざまな美術工芸品の制作が、最も充実した時期です。こうした大正期御慶事の際、奉祝のために制作され、献上された美術品の数々を通して、それらの意匠的特徴、これらにかかわった人々と時代の特徴等を、ご紹介しています。			

<b>三峰窯の思い出一宮様とやきもの</b>	21. 1. 6	1,700	<b>850</b>
三峰窯は、秩父宮殿下が御殿場ご別邸で療養生活を送られていた際、陶芸に親しみたいとお気持ちから、昭和25年に陶芸家加藤土師萌に築かせたもので、ご別邸から眺められた富士・箱根・愛鷹の三峰と秩父三峰にちなんで、名付けられました。加藤土師萌は高松宮殿下にも陶芸の指導に当たったことから、旧秩父宮家・旧高松宮家のご遺品の中から、両宮家に縁の深い陶芸家の三峰窯にまつわる作品を、ご紹介しています。			
<b>両陛下、思い出と絆の品々Ⅱ</b>	21. 12. 19	1,300	<b>650</b>
天皇皇后両陛下御成婚50年、天皇陛下御即位20年を記念して、「人々との思い出と絆一国内各方面から贈られた品々」と「世界の国々との友好の絆」をテーマとして、国内の御訪問と国際親善の御様子を、御贈進品などを通してご紹介しています。			
<b>花ひらく個性、作家の時代</b>	22. 3. 30	1,500	<b>750</b>
美術御奨励のため、皇室御下命による作品、御慶事の際のお祝いの品、各種展覧会に出品されお買い上げになられた作品など、大正から昭和期に活躍した、山口蓬春、横山大観、宇田荻邨、竹内栖鳳、高村光雲、河井寛次郎、板谷波山ほか多くの作家たちの作品を、ご紹介しています。			
<b>虎・獅子・ライオン</b>	22. 7. 17	1,300	<b>650</b>
わが国の美術工芸品に表された、虎・獅子・ライオンを、人々がそれらをどのように造形化し、時代を経るに従ってイメージがどのように変化していったのかを、作品を通して、ご紹介しています。			
<b>皇室の文庫 書陵部の名品</b>	22. 9. 18	1,400	<b>700</b>
宮内庁書陵部が所蔵する図書、公文書、考古品等の中から、わが国の歴史と各時代の文化の様相を伝える資料として価値のある「書陵部の名品」を選び、初めてまとまった形で、ご紹介しています。			
<b>近代の洋画家、創作の眼差し</b>	22. 10. 30	1,600	<b>800</b>
明治期から昭和初期にかけてわが国に根付いた洋画を、描かれた主題に注目し、国内及び海外の風景を描いた作品、同時代の世相を写し取った作品、我が国の歴史を題材にした作品に分けて、ご紹介しています。			
<b>内国勧業博覧会一明治美術の幕開け</b>	24. 4. 21	1,900	<b>950</b>
わが国の近代化推進に大きな役割を果たした内国勧業博覧会は、明治時代に5回開催され明治天皇もお出ましになり奨励されました。同博覧会に出品された作品を通して、皇室と博覧会との関わりについてご紹介しています。			

\* 送料等については、頒布品のご紹介：図録のサイトとをご確認下さい。